

令和2年度第1回鞍手町総合教育会議 議事録

・日 時 令和2年11月27日 午後1時30分

・場 所 鞍手町役場 応接室

・出席者 町 長 岡崎邦博
教育長 外園哲也
教育委員 藤井睦彦
教育委員 野中眞知
教育委員 木月芙美代
教育委員 堀角泰正

(事務局)

総務課長 三戸公則、庶務管財係長 神谷 徹

教育課長 古後憲浩

開 会 (13:30)

○総務課長 (三戸公則)

定刻より少し早いですが皆様お揃いなので、ただいまより「令和2年度第1回鞍手町総合教育会議」を開催致します。本日進行を務めます、総務課長の三戸と申します。よろしくお願します。総合教育会議に先立ちまして、この度、藤井委員様が長年にわたる功績が評価され、10月21日付で文部科学大臣より地方教育行政功労者表彰をされております。この場をお借りして表彰の伝達式を行いますので、よろしくお願い致します。

まず、地方行政功労者表彰について教育課長の古後よりご説明いたします。

○教育課長 (古後憲浩)

それでは、地方教育行政功労者表彰についてご説明をいたします。これは「地方教育行政においてその功労が特に顕著な教育委員会の委員を、文部科学大臣が表彰し、その功に報いるとともに地方教育行政の発展に資する」とされています。今年度は全国で41名、福岡県からは5名が選ばれております。

続きまして、藤井委員の略歴についてご紹介いたします。藤井委員は鞍手町体育指

導委員を昭和50年～平成22年の間18期35年間、鞍手町社会教育委員を平成14年～平成20年の間3期6年間勤められています。鞍手町教育委員は平成19年～現在5期目を務められています。その間、教育委員長を平成22年～29年までの7年間勤められていました。藤井委員におかれましては約45年にわたり、それぞれの委員の立場で教育行政に関わっておられまして、その功は皆さんご承知の通りでございます。これらの流れの功労が認められまして、この度令和2年度の地方教育行政功労者として表彰されました。以上でございます。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。それでは、町長より藤井委員へ表彰状を伝達していただきたいと思います。

～ 表彰状の伝達・写真撮影 ～

○総務課長（三戸公則）

それでは町長よりお祝いのご挨拶をお願いしたいと思います。町長よろしく願います。

○町長（岡崎邦博）

ひと言、お祝いの挨拶をさせていただきます。この度、藤井教育委員におかれましては、地方教育行政功労者表彰を受賞されましたこと、まことにおめでとうございます。先ほど古後課長からご紹介がありましたように昭和50年の体育指導委員をはじめ、社会教育委員、そして教育委員、その間にも教育委員長を歴任され、鞍手町の教育行政全般にわたって45年間という長年にわたり携わっていただきましたこと、心より敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。本当にありがとうございます。昭和50年からということになりますから、ある意味鞍手町の教育行政の生き字引のようなどころがあると思います。藤井教育委員が中心となって教育委員会を進めていただき、今の鞍手町の教育行政があるのではないかと考えています。この先、コロナ前とコロナ後で社会全般が大きく変わってきそうな気配もありますし、教育行政にも少なからずその影響が及ぶのではないかと思います。藤井教育委員に今までご尽力賜ったことに敬意を表しますとともに、今後とも鞍手町教育行政全般に渡ってご指導賜りますようお願いいたしまして私からの挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

○総務課長（三戸公則）

それでは、総合教育会議に入りたいと思います。お手元の次第に沿って進めさせていただきたいと思いますが、1、開会・2、町長挨拶につきましては、先ほど町長のほうからご挨拶がありましたので3番目の外園教育長の挨拶より始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

○教育長（外園哲也）

みなさんこんにちは。第1回目の総合教育会議ということで、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。本日の議題は来年度に向けての教育大綱についてと、小学校のありかたについてという、今後大きな課題となる内容の会議になっております。どうぞご忌憚のないご意見を出し合い、有意義な会議にしたいと思っておりますのでご協力のほうよろしくお願いいたします。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。それでは早速議題に入らせていただきたいと思います。まず、議題の（1）教育大綱について、でございます。この件につきましては外園教育長よりご説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○教育長（外園哲也）

座ったまま10分程度でかいつまんで説明したいと思います。1枚目に鞍手町教育大綱というものがあると思います。これは平成27年にできたもので、既に5年ほど経っておりますのでこれを見直していきたいということで本日ご意見をいただきたいと思います。教育大綱の今までの分はこのような内容となっておりますので後でご覧ください。

私のほうは次の教育大綱の検討資料ということで、鞍手町の第5次総合計画、それから第5次の後期基本計画より、教育大綱のキーワードとなるようなものとして、ここに載せております。第5次の総合計画よりでは、四角で囲んでおりますように「新たな力で躍動するまちくらす」～未来につなぐ つながる 希望の芽～、「人に輝きを」「知・徳・体」の調和を目指した教育の充実、地域の核となる教育環境拠点都市、健康で心豊かなスポーツの推進、というような柱となっております。

後期のほうでは、そこに書いている内容ではありますが、特に小学校給食センターの在り方検討、下のほうにあります。最近横文字が非常に多くなっておりますけども、Society 5.0時代 仮想空間（サイバー空間）と現実空間（フィジカル空間）を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する新たな未来

社会の教育環境の整備ということですので、これはAI・ロボット・ICTということが盛んに言われていますが、将来2030年ごろには第4次産業革命とも言われるSociety 5.0の到来が予想されていることや、日本の労働人口の相当規模が、労働人口そのものが減っていくと言われていたり、人工知能やロボット等により代替えられるようになる可能性が指摘されています。そういったことが鞍手町の総合計画に入っております。

次に、文部科学省の教育振興基本計画部会よりということ、これからの教育の在り方について論議されたことの内容でキーワードとなるようなものを私のほうでピックアップしております。最初のほうに教育の目指すべき姿として、個人としては自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成、社会としては一人一人が活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現と社会の持続的な成長・発展とあります。その下ですが、2030年以降の社会を展望した教育政策の重点事項ということで、1今後、生涯に二つ、三つの仕事を持つことが一般的になるようなライフスタイル。人生百年時代ということで、これからは100年生きるのが普通になってくるという考えのもとより豊かに生きるため、生涯にわたって学習し、自己の能力を高める必要が一層高まっているというふうな、これからひとつの仕事を終えて引退した後に、さらに2つ3つと仕事を持って行ってライフスタイルが変わっていくのではないかとというふうなことが書かれております。

次、2ページ目ですが一番上に「超スマート社会の実現に対応」と書いておりますが、この超スマート社会の実現というのはさきほど説明いたしましたSociety 5.0のことになります。3番目に書いておりますけれども、教育を通じた一人一人の可能性とチャンスの最大化ということで、AIの発展によって多くの職種が、コンピュータに代替されるが、人間ならではの感性や創造性を発揮しつつ新しい価値を創造する力が一層重要になる。また、人口減少・高齢化の中で競争力を維持し、持続可能な社会を実現するためには、一人一人の能力の一層の高度化が不可欠である、ということが書かれています。その中で基本的な方針として夢と自信を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成するとして、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成」主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ここではアクティブラーニングの視点からの授業改善の推進とされています。

基本的な方針の2ということ、社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する 分野横断的な知識の習得、技術や情報を取捨選択して課題解決のために使いこなす力、情報教育の光と影、ICT、GIGAスクール構想というふうなことが書かれておりましたが、来年から本町でも3月までにはGIGAスクールのハード面は全部揃うとされています。また、来年の教科書からはすべてQRコードが載るよ

うになっています。タブレットをQRコードにかざせば2～3分間動画が見られるということで、今まで口で説明していたものが動画で見られるようになるということになります。ただ、そこで問題なのが光と影の部分です。以前、野中委員も心配されていたことなのですが、実際そういうふうを実施していきますと画面を見ればすぐわかるということなのですが、それが定着しないか。見て、わかった、それで終わりということになってくると定着にはなにもならないということで、そういった影の部分もありますが、そういうものを活用していきながら授業をやっていく…色々と授業のやり方もありますけども、ステレオで音楽を聴くのと生で音楽を聴くのでは感動が違います。だから授業もそういったICTを使ってするのもいいのですが、その場の雰囲気とか感動とかそういったものは生の授業じゃないと伝わらない、で、生の授業でなかなか見せられないようなものをそういったICTを活用して理解を助けていくということをしていかないと今後ICT、GIGAスクール構想等なっていますが、それだけの力ではこれからの子供は育っていかない、それを活用していくことが必要なんじゃないかというふうに考えています。

次は生涯学び、活躍できる環境を整えるということで、年齢を重ねるにつれて、一般的に体力や短期的な記憶力は低下するが、日常の問題を解決する能力（知恵）は伸びていくので、伸びる力を伸ばしていく、ということで、少子高齢化というのは仕方のないことですので、今後健康寿命を延ばしていくことが大切になってきます。ベッドに寝たきりでは困りますので、健康寿命を延ばすための生涯学習、そういったものを組んでいかなければならないということがありました。また、そういった中でコミュニティスクールの導入ということも書かれていました。コミュニティスクールというのは、学校に地域の方が入って環境整備したり授業を手伝ったり、逆に学校の児童・生徒たちが地域に出向き、協力をしていくというように、双方向のやりとりを行うものがコミュニティスクールですが、出来れば形だけではありますが来年頃から取り組んでいくべきか、とは考えております。生涯学習に関しましても、お年寄りが勉強したいことはなにか、インターネット等で調べたところ、平均で行きますと英会話を勉強したいと、次はパソコンですね。そういったものが多く出ておりました。なので今後、パソコンやスマホを扱うとなると、年を取るとどうしても倦厭しがちですが、勉強していきながらこれからのSociety 5.0に備えていかなければならないと考えます。

次に基本的な方針4、誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する。基本的に横文字が多くなりすぎて分からないのですが、色々なセーフティネットというのがありますが、学びのセーフティネットというものは命を守る、つまりいじめや自殺ですね。そういったものを予防していこうということで、スクール

カウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置してやっていこうということが出ておりました。

そして、最後になります教育課題ということで一番下に載せておりますが、子どもたちの読解力の低下への対応、自己肯定感の向上、子どもの体力、朝食欠食への対応など、健康の確保という部分と社会人の学び直しとグローバル化への対応。子どもの貧困、経済格差による学力格差、子どもの貧困、大学進学、地域間格差、ということが書かれていました。特に横断的な学習ということで、スペシャリストよりもジェネラリストということで、義務教育においては幅広い視野に立てるような教育であってスペシャリストではなくジェネラリストを作ることが大切であるということが書かれていました。また、教育課題で自己肯定感の向上と書いておりますけれども、福岡の学校教育振興プランが別紙資料として付いていますが、ここに書いてあるものも自己肯定感のレジリエンスと言い、様々な困難に立ち向かっていくという心の回復力という、そういうものが今後大切になります。例えばプレッシャーがかかったり圧力がかかたりします、そういう時にそれを回復する力、いくら肯定感が高くて理想が高くて夢を持っているという子どもであっても、夢があつたけれども潰れてしまったけれどもそれをまた回復する力が大切であるということが書かれてあります。

最後に教育施策がありますが、今まで教育委員会のほうで出していたものですが1～7の項目に分けて来年度出していくように整理をし、目指していきたいと思えます。

後の資料は簡単に説明いたします。次は福岡県学校教育振興プランの教育大綱の概略を載せたプリントです。次のページは中央教育審議会答申の学習指導の平成27年からの移り変わり、ポイントが載っているプリントであります。これで簡単に説明のほうを終わらせていただきます。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。ただいま教育長からご説明がありましたように本町の教育大綱につきましても平成27年4月から画定されて現在5年を経過し6年目に入っていくという状況です。鞍手町の教育大綱の見直しにあたりまして教育長からございましたように本町の総合計画・国の文部科学省の教育振興基本計画に基づいた重要・重点事項、それからそれに基づく基本的な方針を踏まえ福岡県の教育振興プラン・福岡県の教育大綱等も参考にしながら新たな大綱を作っていけないかということになっております。この教育大綱の画定につきまして教育委員の皆様からご意見を頂戴したいと思えます。ご質問・ご意見がありましたらお願いいたします。

○教育課長（古後憲浩）

補足をさせていただきます。先ほど教育長から説明があり三戸課長からも追加説明がありましたが、この会議の中で平成27年度の大綱をもとに新たな大綱の検討ということで、今後教育委員の意見をいただきながら作成していくこととなりますのでご協力をお願いしたいと思います。また、説明させていただいた件で気になる点・注力する点等ありましたら町長からご意見を頂けますとありがたいと思います。

○町長（岡崎邦博）

まず私の方から。今、教育長から大綱の検討についてご説明いただきました。方向性としてはこれでいいのではないかと思います。最初に鞍手町の総合計画・後期基本計画についてもご説明をいただいています。当然ながらこの総合計画・後期基本計画に沿った中でということにはなると思います。平成27年度に策定された大綱の中で引き続き受け継いでいく部分と、さきほどの挨拶の中でも少し触れましたが、大きく社会情勢が変わってきている中で教育行政そのものについても少なからず影響を受ける部分もあると思います。そういうものについてこの大綱の中で謳っていく必要があるかなというふうに思っています。それが端的に言えば **Society 5.0** という、今日本の菅総理になっていろいろと大きく変革を取り入れようとしている中の中心的なものかなというふうに思いますが。これについても行政の中で反映していく必要があるかなとは思っています。特にICTやAIだとかいうような言葉、それと同時に今回一人一台のタブレット端末の配布というようなこと、あとはインターネット環境ということ、そういうことを含めてオンライン教育をどうするかとかそういうことを当然ながら考えていく必要があるかなと思います。

今までの教育環境からするとかなりデジタルを含めたものも取り入れていくことになるかと私自身思います。先ほど、光と影ということで定着しないという懸念がひとつありました。そういった問題点はこのデジタル化の中で考えられることかなと私自身も思いますし、またそれをどうやってクリアしていくかということにひとつ知恵があるのかなというふうにも思います。いずれにしても、子どもは2、3歳の小さい時から親のスマホをいじるというのが当たり前の時代になっていますのでタブレット等もおそらくは小学生のほうが我々よりも使い慣れているのではないかと思います。それをひとつ教育の中で活用していくというのは今後の社会の中では当然で、昔の読み書きやそろばんのようにひとつのツールとして身に着けていく必要があるかと思っておりますので、そういうことを大綱の中でどう謳っていくかということになるかなと思います。いずれにしても英語教育を小学校の中で教科として扱われているということもありますし、高齢者の方たちも英語やパソコンを学びたいというお話もありました。学校教

育・生涯教育の中でパソコン・英語教育ということも現在の世の中の流れとしては必要かなと思います。いずれにしても、先ほど教育長が言われましたものに基づきまして大綱を作成していただければと思います。

○総務課長（三戸公則）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律が平成27年に改正されたときに併せて法律の中で教育大綱が策定されるという流れになっております。その時の流れを見ますとこの大綱については教育の目的や施策の根本的な方針を決めるもの、それから総合教育会議においてその自治体の長と教育員会が協議・調整を尽くして自治体の長が策定するという形になっています。今回、新たなものの策定にあたりましては教育長から注意事項・テーマについてはお示しをしていただきましたけれども、それをもとに一旦案を策定させていただきまして、その案に対してご意見をいただく機会を設けるという形でのよろしいでしょうか？

○教育委員 全員了承

○総務課長（三戸公則）

それでは、大綱策定についてはそういう流れにさせていただきたいと思います。一応目標としましては、令和3年度からの大綱ということでまた年度内に改めてこの大綱の素案についてお示しをしていきながらご意見をいただきたいと思いますと考えています。次第の議題（1）につきましてはこれでよろしいでしょうか。

では、続きまして（2）の小学校の在り方の議題に進みたいと思います。この件につきましては古後教育課長よりご説明をさせていただきます。

○教育課長（古後憲浩）

それでは（2）の小学校の在り方についての説明をいたします。まず経過について説明いたします。昨年10月30日の総合教育会議の中で小学校の在り方についての意見交換が行われています。様々な意見が出された中で町長といたしましては保護者の皆様の率直な生の意見を聞きたくそのために学校を回りたいという話をされております。その際教育長のほうからPTAの役員のお聞きしてはどうですかというご意見をいただいております。それを受けまして今年12月26日に町長・三戸課長・古月小学校の熊井PTA会長が打ち合わせをされています。その中でいろいろ意見交換がされています。熊井会長からは町長に対して、小学校を町長が回って意見を聞く方法は期待している効果が得られず混乱を招くのではないのでしょうかというこ

とを意見として言われ、町長が考えている方法を再検討したほうがいいのではないかという意見をいただいています。1月9日に再度PTAの方との打ち合わせがあつています。その際には町長・三戸課長・熊井会長と副会長の貝崎さん・私が入っています。そこでいろいろな意見交換のなかで先ほどの町長のご意見をお話しする中で剣北小学校のPTA会長なら直接生で意見を聞くのは難しいのではないですか、という意見がありまして、アンケートによる意見の聞き方が有効ではないですかという提案がされておりまして、その中でまた話し合いを行い、アンケートの作成についてはPTA主導で行い作成をしていただけないでしょうかという話を三戸課長から提案しておりまして、PTA会長と貝崎さんが了承されたという経緯があります。それを受けまして1月半ばから熊井会長が各小学校のPTA会長との打ち合わせをしています。そして1月いっぱいをめどにPTAでアンケートを作りましょうという打ち合わせをしまして3月の初めに熊井PTA会長からアンケートの内容が固まりましたので、この内容でどうでしょうかというご意見をいただきました。私どもも見させていただき今年の3月30日に町長にアンケートの内容の了承を得て熊井会長に連絡をいたしました。ただ当初の予定は3月いっぱいアンケートを作成し4月下旬～月の連休あたりまでにはアンケートをお配りするという予定だったのですがご承知の通りコロナウイルスの関係で学校が4月から休校になりました。このためその作業が進まず一時中断されておりました。5月末に学校が再開されましたがなかなか状況が落ち着いていないということで、結果的には7月27日に各小学校にアンケートをお配りしまして8月7日に各小学校からアンケートを回収しました。そのアンケートにつきましては全部でPTA数5百数十人に対しまして138の回答がありました。すべて記述式でしたのでそれをすべて文章に起こして出来上がったものを10月末に町長にアンケートの状況ということで提出しましてその後教育委員会の皆様にはお配りした通りでございます。今月の11月18日にアンケートの内容につきましてPTA役員の方にアンケートを作っていただきましたので、そのアンケート結果の説明を13人の小・中学校のPTAの代表に対して町長・三戸課長・私が出席し行いました。これが今までの経緯でございます。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。古後課長から小学校の在り方についてのこれまでのアンケート調査を取るまでの経緯・説明会の実施の内容で説明をしていただきました。この件につきましてご質問・ご意見等ございましたらお願いします。

○教育課長（古後憲浩）

確認としてアンケートの質問の内容の方向性だけ少し説明いたします。

皆様にはアンケートをお配りしているので大体の方向性や内容はご存じかと思いますが、確認をと思ひましてご説明させていただきますと全部で6つの質問がございまして、1つは「皆さんは子どもたちが通いたい学校・子どもたちが夢をかなえていくために必要な教育とはどういうものだと思いますか」という質問をされていますが、これは当日町長が説明されたものと私が分析したものも入ってまして、一番多い回答としてははじめがない学校、行事が充実している、挨拶ができる、教師に対する思いが書かれていた、プロフェッショナルに話を聞く、夢を持たせるようなサポートが必要、オンライン授業、プログラミングやICTの活用についてというのが、この1の夢を叶えていくために必要なものということでアンケートの方向性としてはそういうものがあります。もう一つは施設面で少し意見があったのはトイレがきれい、これは少数ですが自然体験ができるという教育が必要じゃないかというような意見もいただいています。次に、保護者の皆さん・地域の方々が学校運営に関わっていきたくと思うためにはどのようなことが大事だと思いますかという質問ですが、地域の回答として多かったのは地域の方とのコミュニケーション、先生以外の意見、学校回答気楽に行ける学校、行事・イベントに参加しやすい、子どもと一緒に作業できる、働いている家庭は行事に参加しづらい、自然を活用した体験学習ということと、基本的には行事をたくさん作ってくださいとか、子どもたちが地域とのかかわりを沢山持つ機会が増えたらいいというようなご意見、本当に建設的な意見が多かったような気がします。

それと、次の3番目の子育て世代・若い世代を鞍手町に引き付けることができる学校・教育環境とはどういうものだと考えますか。その際に活かせる町の魅力・資源は何だと思いますかということですが、安心・安全な学校 小中一貫の学校、校舎を綺麗にしてほしい、小学校統合や、今のままがいい等というアンケートの結果です。それと少数意見ですが、施設のことが書いてあったり、学校の費用が無償化であってほしいという意見もありました。

4番目は、今後小学校と教育について検討する際に必要なことは何だと思いますかということについて、学校についていける子・いけない子、一人一台のタブレット、個性を伸ばす英語教育実体験というようなことがありました。その中で子・親・先生との会話の必要性というのもございました。

5つ目の、可能ならば、お子さんが学校に何を求めているか、どんな学校ならいいなと思われているかお聞かせください。という子ども目線の質問ですが、給食のメニューについて意見がありまして、友達と楽しく暮らせる学校、施設のトイレが綺麗と

というようなものがありました。また、中には少人数の学校がいいという意見もあったようです。

最後の、子どもたちの未来・鞍手町の教育にとっていいアイデアがあれば何でも記入してくださいということで、これは全体的に空欄が多かったです。受験のできる公立学校を増やしてほしい、ALTを1校に1人、スクールバスを活用して学校を減らす、自然を活かす、その他先生に対する意見があったようです。

以上がこのアンケートの全部で6つあった意見の相対的な回答をまとめたものでございます。町長、他に付け加えることがあれば教えてください。

○町長（岡崎邦博）

今ほぼ古後課長から説明していただいた通りです。アンケートについても、当初はこちらで作成してお配りしようという話でしたが、PTAの保護者の方達からやはり自分たちのほうで作ったほうが回答しやすくなるのではないかと保護者の方たちの生の声を聞けるのではないかとという声がありましたので、PTAの方に設問をすべて作っていただいて、配布をしました。回答については今古後課長から説明してもらった通りです。その後11月18日に小学校のPTAの会長さんたち、副会長を含む13名がお見えになって、説明をさせていただきました。その際にも、このアンケートについて色々なご意見をいただきまして、ある意味前向きなお話ができたと感じています。PTAの会長さんたちは本当に熱心に質問・ご意見をいただきました。その際にこのアンケートだけではなく、いつから学校を回るのですかというご質問もいただきました。この総合教育会議の中でも先ほどありましたように学校のほうに出向いて保護者のご意見をお聞きしたいという話もさせていただきました。PTAからそういう質問もありましたので、来年の1月～2月にかけて一番寒い時期になりますので学校で暖を取りながら意見をいただくことが出来ないという事情がありますので、室木・西川・新延小学校についてはくらの郷の多目的ホールで開催しようと考えています。また、古月・剣南・剣北小については中央公民館でそれぞれ日にちをひとつずつ設定して保護者の方のご意見を頂戴するというふうに考えています。

○堀角委員

意見交換の内容・目的はどのようなものですか。

○町長（岡崎邦博）

アンケートを取った前提ということにはなりません。そして、その在り方というのが中心になりますので、それを前提とした意見をお聞きするということになります。

○堀各委員

他にも統合の話等は出ていますか？

○町長（岡崎邦博）

他にも出ていますし、そういった質問も（意見交換の中で）当然ながら出てくると思います。アンケートの結果をご覧いただいたと思いますが、11月のPTAとの話の中でも統合についての前向きなご意見がありました。

○総務課長（三戸公則）

アンケートに対するご感想のようなものがあればお願いします。

○堀角委員

回答数的にアンケートとしての役割になったのかなというのが気になるところです。答えてない方のほうがかなり多いので、その方たちの話を聞けたらどういう方向で進みたいのかなというのか気になります。

○町長（岡崎邦博）

一般的にアンケートを取っても大体回答率は普通30%くらいですね。今回の場合は25.5%程度ですのでそれよりも少し低いということになりますが、今それなりにお考えをお持ちの方については恐らくこの中で答えていただいているとは思いません。

○総務課長（三戸公則）

先ほど古後課長から説明がありましたが、アンケートを作成するにあたり、当初は行政のほうで案を作りましたが、PTAの会長たちから集まると皆の前で意見が言い出しにくいという方が結構おられ、アンケートにするといろんな意見が出てくるのではないかという考えで、この6項目を作っていただきました。逆に記述式ですと記述が難しいということもあり、今回の回収率が25.5%と少し低かったのかなと思います。

○藤井委員

今回のアンケートを全て読ませてもらいましたが、内容や回収率を見ると、学力の高い学校というのは保護者も関心度が高いですね。それと、学力がちょっと低くこれから頑張ってもらわないといけないという学校は回収力が少ないですね。

それと、アンケートの回答の中には家庭環境のことがすごく出ているんですね。その家庭環境を何か変えないと、子どもたちも学力もどうにもならないし、学校に対する意欲も出てこないだろうと。保護者もそうでしょうということですね。今回のアンケートで私自身が一番感じたのは、鞍手町の家庭格差ですね。これをどう解決していくかというのが大きな問題ではないかと思います。そういうことに対してすると学校の教育現場に対する皆さんの考え方も変わってくるし色々変わってくると思います。鞍手町全体から見ても活気が出てくるのではないかなという気がします。

そういう部分を今後見ていただいて対応していただきたいと私は思っています。あとは、学校のクラスの子どもたちをどう考えてくれるかということも出てますけどね。これはやはり県の考え方もありますから。子どもの配置と先生の配置は。これは先々考えていかなければならないと思います。こういうのも、今回のアンケートを見させてもらって我々も気づかない部分が出てるといふのがありましたから、（アンケートの実施は）よかったのではないかと思います。町長にお願いしたいのは、そういうもことも含んだところで今後の学校の在りかたを考えていただきたいと思っています。

○町長（岡崎邦博）

まさしく11月18日のPTAの方たちにお集まりいただいたときに開口一番私のほうから説明させていただいたのが、学校間で地域差があると。そういうことをお話しさせていただきました。それが家庭環境そのものに影響するのかどうかというまでは追及出来ていませんが、地域差があるといふのはやはり、アンケートの中で回答率も含めて記述の内容もやはりそういうものがあるのかなという感じはしました。

○総務課長（三戸公則）

他にご意見等ありますか。

○藤井委員

せっかくアンケート結果を貰ったので。お父さんお母さんがどういう考えを持っているのかということに興味がありまして。2日くらいかかりましたけど読ませていただいて、やはり（回収率が）50%とはいかなくても40%くらいは欲しいなという気がしたんですけどね。それももう少ししてもらいたいということと、この中にも出ているように共稼ぎでなかなか学校のことまで手が回らないという回答がありましたね。それが本音かなと私は思っています。そのような事情を考えると提出率が上がってこないというのが本当かな、と思います。

○町長（岡崎邦博）

アンケートを書いていた方の中には、共稼ぎだから学校行事に出られないという記述がかなりあったようにも思います。それにも関わらず書いていただいたというのは本当にありがたいことだったと思うのですが、そういったことでなかなか時間がなく、設問自体も6つありましたので、記述する時間なり、考え方をまとめるという時間も含めて取れなかったのかなという気はします。

○藤井委員

ちょうどこの中にトイレについての意見がかなり出ていますよね。これは保護者としても子どもとしても切実だと思うんですよね。

○町長（岡崎邦博）

トイレも含めて学校の設備について老朽化しているという意見がかなりあったように思います。

○総務課長（三戸公則）

先ほども説明があったように11月の18日のPTAの各地区の会長さん方が集まった中で、先ほど町長も言われましたが、各6校の小学校で授業の格差があるのではないかと、このままでいいのだろうかという意見が出ました。その時に町長が回答しましたので、もしよろしければ町長お願いします。

○町長（岡崎邦博）

西川小学校の陰山メソッドの話が出ました。西川小学校の保護者の方から西川小学校の学力を知っていますかということをお聞きしまして、私には水摩元教育長とよくお話をすることがありましたので、その際には全国レベルでうちの小学校（特に西川小）は高いのだと聞いていましたので、私は承知していますという話をさせてもらった時にどうしてそれがほかの小学校にも波及しないんだという話をされていました。それはそれぞれ学校長の考え方その他があるのでということで古後課長から説明をしてもらいましたし、私自身もその保護者と同じ意見を持っていることも一時ありました。小学校全体のレベルをどうやって上げていくかというのは大きな一つの課題かなと思います。そういった話はさせていただきました。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。他に意見がないようであれば（２）の小学校の在り方という議題につきましては終わります。

○町長（岡崎邦博）

この小学校の在り方についてはアンケートを取らせていただきましたし、今後は各小学校の保護者の方たちともお話を聞かせていただいて、その中で校舎等の問題もあります。また教育環境として子どもが今後も大きく減少していくということもありますので、今後の統合は避けて通れないのではないかと思います。その方向に向かって進めていきたいと考えています。

それで、来年度につきましては検討委員会についても立ち上げていきたいと考えています。

○教育課長（古後憲浩）

町長のお考えですと、小学校統合の方向で進むということでしょうか。

○町長（岡崎邦博）

それが1校になるのか2校になるのか3校になるのかわかりませんが、少なくともこの6校を今後も維持していくということについては教育環境としてどうなのかということを考えれば避けて通れない問題ではないかと思います。

○野中委員

私は基本的に統合には賛成です。やはり子どもの将来を考えたときに少人数の良さも確かにありますが、社会人を養うというのが大きな要綱に出ていますので、そういう子どもたちを養うためにはやはりいろんな人の中で少しずつ揉まれていく。その中で体制を作っていくというのはとても大切なことなんだけれども、今鞍手町の教育の現状を見たときに、子どもたちに手が行き届きすぎているんですよ、少人数だから。これは悪いことではなくとても大切なことなんですけれども、子どもの個性を育てていくといううえでは、自立心・強い生命力とかを考えたときには必ずしもいいことではない、だから私は基本的に、これからは統合してある程度お互いに揉み合うような社会の中で子どもは育っていかなければならないという考え方は持っています。ただ、小学校の統合というのは色々経験してきましたけれど、結論から言うとめちゃくちゃ難しい。卒業者の方々の反発が非常に強いということが大きな障害になってきたということ。現状で子どもを学校に行かせているお父さん・お母さん方は今のままではよくないのではないかとという考え方で二分化されているという中でどうやってそ

れを持っていくかということが教育委員会と町が二輪になって持っていかないと、とても難しい問題だろうなということで、1～2年では難しいだろうけれども、そういうのを計画的にやっていけば、私は是非そうしていただきたいなと思っています。

○町長（岡崎邦博）

まさしく、小学校の統合については地域性がある地域の方たちとの繋がりが深いということもありますので、今、野中委員が言われました懸念はあるかなと思います。ただ、冒頭言われましたように子どもの教育環境としてどういう環境が最適なのかということをご理解いただく、それが第一じゃないかなと思います。

それと、地域コミュニティを教育の場としての学校と地域コミュニティを作っていく場として今度はどう担保していくかということも考えていくことが大事かなと思いますので、地域としては1つになっているんですけど、一時的にはやはり学校は教育環境の場として考えて、地域の方にもご理解をいただくように説明をしていくことが必要かなと思います。

○野中委員

もう1点いいですか？もう1つの立場から言うと、学校の建物が老朽化しているということは、これを建て直すにも何億、何十億という問題ですから基本的に5、6校もできるわけがないので、近代化された小中一貫校だとか目玉が必要です。先ほどのトイレの問題等も出ていましたし、進んだ学校ではトイレは全部段差ありませんでしたよね。更に進んだ学校ではオープントイレというんですよ。ドアがないんですよ。全部見えるようなトイレ。そうするといじめの問題・隠れた問題等も見えてきますので色んなことが出来るし、給食設備にしてもエレベーターで上がって行く等。そういう内容的なものや建物的な両面から考えたうえでもやはり鞍手町は小学校統合をしていく限界にきているのではないかとすごく感じます。落下物が当たって怪我でもしたら補償問題になります。老朽化してくると壁が落ちてくるので安全面を考えたときには統合というのは切羽詰まってきたのではと思います。

○木月委員

時間はかかるかもしれないけれど、今はそれを起こしていくいい時期ですよ。高齢者の方たちも参観されたときにちゃんとせないかんよねという方もいらっしゃるんですよ。こんな数人の授業じゃいかんよね、と話されてますからね。皆さん思ってたんじゃないかなと感じました。

○総務課長（三戸公則）

では（２）の小学校の在り方につきましても（１）の教育大綱につきましても、会議がもう一度ありますので、来年年明けて各小学校で懇談会を持ちますので、その経過等も含めまして次回の総合教育会議の中でご報告させていただきたいと考えております。小学校の在り方について貴重なご意見ありがとうございました。

次の（３）について、なにかございますでしょうか。

○堀角委員

庁舎が今度新しく建ちますよね。教育委員会としても学校教育と生涯学習の２つ係があるんですけど、今後のG I G Aスクールであったりとか統合の問題とか密になってくるので、今の教育課を２つに分けるなど、その辺検討していただけますか？

○町長（岡崎邦博）

その辺については、庁舎を建設するにあたって組織改革を検討しています。今のところは人員の配置・定数の関係もあり難しいのではないかという方向になっています。生涯教育関係の施設が沢山あるところについては生涯教育課と学校教育課が分かれているところがありますが、鞍手町の場合は体育総合施設・歴史博物館以外にも横穴とかありますが、いまのところは課としては教育課でいこうと考えています。

○総務課長（三戸公則）

大変貴重なご意見ありがとうございました。先ほど申しましたように年度内にもう一度総合教育会議を開催させていただきまして様々な件につきましてはご報告させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、以上を持ちまして令和２年度第１回鞍手町総合教育会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

（午後１４時２０分 終了）